

秋も深まり、日の入りも早くなってきました。
交通事故を防ぐために、ちょっとした心構えで安心できます。

夕暮れ時、少し早目のライト点灯。(自動車・二輪・自転車)

近くでも、夜間の外出のときは、明るめの服に反射材。
(歩行者・自転車も)



みんなで防ぐインフルエンザ

予防接種だけでなく、ご家庭でも予防対策ができます。

インフルエンザにかからないように予防しましょう。

流水と石けんで 20 秒かけてしっかり洗う
清潔なタオル・ハンカチでしっかり乾くまでふく

こまめな手洗い

ウイルスは手指を介して感染します。



外出後・食事前

には、うがい



インフルエンザをひろげないようにしましょう。

発熱など調子が悪いときは・・・

外出を控える
家族や周囲の人への感染の防止



無理をせず仕事
学校を休む
早目に医療機関
(かかりつけ医)に
相談・受診しましょう

咳などの
症状がある
方はマスク
着用する



あとかき

秋も深まり紅葉が目を楽しませてくれますね。今月は、領内神社の秋祭りの餅つきを取材に行き、一緒に餅つきをしてきました。祭りは華やかなかでわずかな時間で終わりますが、やはり関係者のかたがたの努力や苦勞があってこそだと感じました。当日の参拝者の皆さんの笑顔カメラ越しに見ながら、良いお祭だったとうれしく思いました。宮総代の皆さまご苦勞さまでした(K)

再生紙 100%使用

領内出張所 だより

第6号

平成22年11月15日発行
領内出張所 77-2001

ryonai@odaitown.jp

山には、黄色や赤色の木が目立つようになってきました。

ますます、秋も深まってまいりましたが風邪などひかないようご注意ください。

さて、今回は領内神社の特集をしてみました。

大正の宮立ち



領内神社は、明治40年に8字の村社(八柱神社)5社、無格社19社、境内社12社を小滝八柱神社と合祀、当時の村名「領内」を社名としてきました。春と秋の例祭では、多くの方々が参拝されます。昔は、祭りの時に奉納相撲が行われていたそうです。

神社の横を流れる始神川のせせらぎの音、境内の大きな木々の姿を見ると癒されるように感じるのではないのでしょうか。

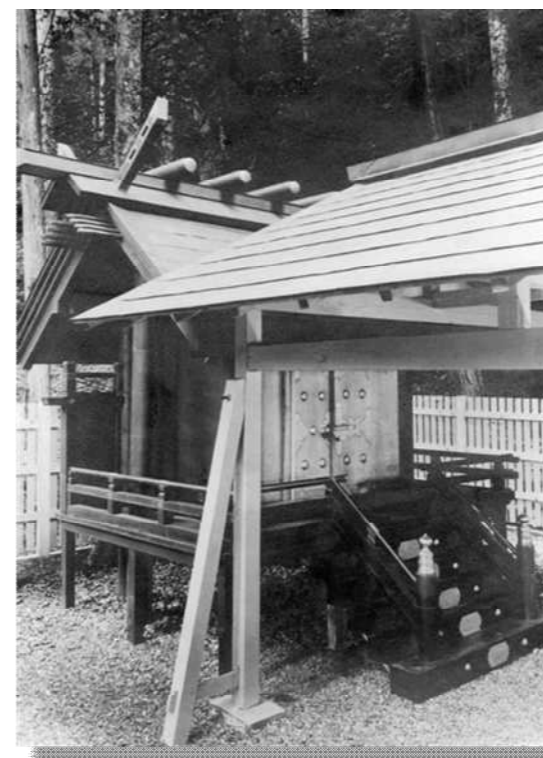


社神内領

11月7日の秋祭り



祭り当日は、肌寒いあいにくの曇り空でしたが、約100人のかたがたが、参拝しました。



昭和44年の式年遷宮

祭りの神事が終わった後の餅まきでは、「まいて、まいて！」の大きな声が、境内に響き渡りました。





一番選手は大井在住の上平 仁美さんに投稿をお願い

11月号(第6号)の「ペンリレー」は、唐櫃にお住まいの小倉 一巳 さんに執筆をお願いしました。
領内に関する自然・歴史・思い出などを書いてみませんか、「領内出張所だより」に掲載させていただきます。
せひともご連絡をください。なお、本文は原文のまま掲載させていただきました。

sy

「唐櫃の橋渡り」

昔、唐櫃側から、北岸に往来するには領内橋か荻原橋まで、回って行かなければならなかった。そこで、考えられたのが丸太橋である。山から杉丸太を4〜5本切り出し架けたのが橋渡の丸太橋で、明豆ルートと御棟ルート(現在は不帰)があり、私たちもよく渡ったものである。

宮川に大雨が降り橋が流されると、また山から切り出し架けなければならず、昔の人の苦労が偲ばれる。何度も橋を架け替えているうちに、明豆側に鉄柱を打ち込み鋼線で繋ぎ流されないようにした。

この架け替えの時期が難しく唐櫃側に4〜5人、明豆側に4〜5人に別れ、水が橋台から1m程下がった時に行われたのを、子供心に覚えている。

また、明豆で祭りや地芝居があると出合作業で橋に手摺を明豆の人が、唐櫃であるときには、唐櫃の人たちが行っていた。

我々が芝居を見に行くと、手を振って、「こや、こやんな」と親戚が早出で席を取ってくれたのであろう。招かれた席に着くと重箱何重にも、此の日にそなえ家内じゅうで作ってくれたもてなし物が詰まっています、子供心にこんなにつれしい事はなかった。



明豆側から撮影(場所 国道422号線炭屋谷橋下)

私が小さかった頃は互いに親交が厚かったもので、この様な事はこんなにもちの生活の中では考えられない。また、このような親交は実に意義深い事だと思つので、もし、昔に戻って生活することが出来るならば、戻ってみたい。

また、この丸太橋で尊い命を何人ものかたがたが亡くされたので、いつの日か唐櫃橋側の小高い所に地蔵さんを祭った。

現在では、西側に橋台の跡が残るだけで、地蔵さんは左近トキさん宅下の三差路の隅に祭られ、唐櫃の人々の信仰を集め、いつも線香の匂いが漂っている。

小倉 一巳